



巻頭特集

かわまちてらす 閑上

**新時代へ向けて
再スタート！**

水辺のある景観の美しさが魅力の名取市閑上地区。東日本大震災では壊滅的な被害を受けたものの、現在は復興事業が進展。県内外から多くの人が足を運ぶ「ゆりあげ港朝市」なども復活して、昔の活気を取り戻しつつある。さらに今年4月25日には、同地区に新しい商業施設「かわまちてらす 閑上」が誕生する。地域の飲食店や美容室、鮮魚店など、震災で地域を離れていた馴染みの店舗のほか、地域外からも多くの出店があり、新たな交流とにぎわいの創出に期待は高まっている。

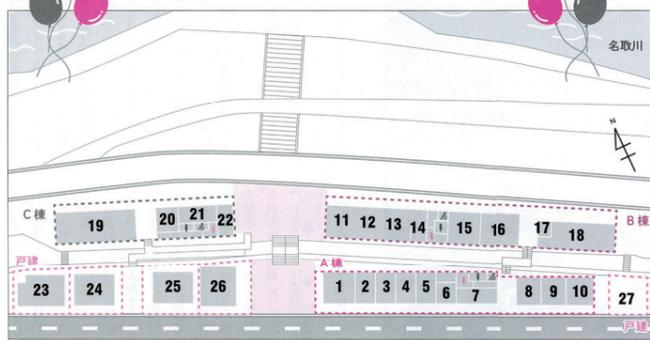
復活の狼煙のろし

港町として発展してきた閑上地区は、悠々と流れる名取川や貞山堀、広浦など水辺の美しい景観が魅力の一つとなっている。震災前は7千人近くの人たちが生活を営んでおり、サイクルスポーツセンターや閑上海浜プール、港朝市など観光にも力を入れ、年間50万人以上が訪れるにぎわいを見せていた。豊かな自然を求めた釣り客に加え、週末には家族連れなどが地域のレジャーを楽しむ姿も多く見られたという。

震災の津波で甚大な被害を受けた同地区だが、この8年で復興事業も進み、新しいまちの姿は徐々に出来上がっている。平成25年5月に再建された「ゆりあげ港朝市」では、集客も震災前の9割まで回復し、かつての活気を取り戻している。2020年度にはサイクルスポーツセンターも天然温泉、宿泊施設付きで再建される見込みで、震災伝承館やメモリアル公園の整備も進んでいる。

今回の主役である「閑上かわまちてらす」は、まちなか再生計画区域の主軸となるにぎわい拠点として先行的に整備された。地域の日常的な消費需要や観光・交流需

かわまちてらす 閑上施設ガイド



A棟		B棟	
①産直市場「野菜畑」	野菜・スイーツ	⑪BLOOM	スイーツ
②かまぼこの佐々直	笹蒲鉾	⑫ももや	かつ丼
③ICHIBIKO 閑上店	果物・スイーツ	⑬ゆり唐あげ Tobiume	唐揚げ
④おきたまや	和菓子	⑭たこすけ	たこ焼き
⑤蒲鉾屋 ささ圭	笹蒲鉾	⑮Minamo cafe	シフォンカフェ
⑥木乃幡 別品館	和菓子	⑯Curry laboratory 笑夢	カレー
⑦私の部屋ふるる	美容	かわまちてらす店	カレー
⑧鮮魚 漁師直送 ウロコ水産	鮮魚	⑰株式会社 ウトロン	だんご
⑨エコパレットかわまち	コインランドリー	⑱株式会社 ウトロン	ジンギスカン
⑩さくら水産	鮮魚・惣菜		

戸建建物	
⑲漁亭 浜や	ラーメン
⑳中華そば 麺屋 幸	ラーメン
㉑おはな家 (図南商事)	駄菓子・BBQレンタル
㉒カフェ 浜ちどり	喫茶
㉓浜一番	ラーメン
㉔まるしげ商店	水産加工品
㉕若草寿司	寿司
㉖魚匠 鈴栄	ちりめん
㉗鮮魚 とみ田	鮮魚



27店舗の複合商業施設
水辺と融合するユニークさも

施設外観は、かつて松にくくりつけた行灯で、帰ってくる船を迎えたという言い伝えから、閑上地区のシンボルとなっている「あんどん松」をイメージ。ゆったり過ごしてもらえようと、日本の伝統色である海松藍色を使用し、落ち着いた印象としたのも特徴だ。夜に優しく灯る光はまさに行灯のようで、訪れる人々を温かく迎え入れている。

要を取り込む商業施設であり、20以上の店舗が軒を連ねている。他の地域に負けない魅力を持つために、すでに復興事業で商業施設が整備されている女川町などを参考に、形を練り上げてきたという。



株式会社ささ圭
佐々木 堯さん

地元企業として

閑上地区で被災しながら、再び地元に戻ってくる事業者は多くいる。この地で創業して50年以上の歴史を刻んできた株式会社ささ圭は、地域のかまぼこ店として長く愛されてきた。

3代目となる佐々木堯さんは27歳。震災時、大学生で関東にいたが、卒業後は迷わず故郷へ戻り、同施設の整備を行っている株式会社かわまちてらす閑上では役員も務めてきた。「メンバーの一人として仕事を任せてもらい、閑上地区の未来を考えた施設にしようと作り上げてきた。川沿いを最大限利用するための構造で全国的にも珍しい」と話す。

震災前の同地区は住宅地で、個人商店が点在していた。土手沿いにも家が連なっており、佐々木さんの家もそこにあった。名取川は釣りをする人たちが多く、学校などでは定期的に地引網もしていたという。また、土手は散歩を楽しむにも最適で「一言で表すなら田舎です。高い建物がない。天気が良いと蔵王連峰まで見えるし、朝日や夕焼け

未来のために

東日本大震災の避難先で、地元の人たちはバラバラになってしまったが、災害公営住宅や宅地もでき始め、閑上は人々の活気を取り戻しつつある。しかし、8年の間に戸建を再建した人や、年齢的にも厳しいと再建を断念する人がいるのも事実だ。別の町に移ってしまった人々もあり、昔のようなにぎわいを作り出すのはこれからだ。

同施設は地域外からの出店が半数以上あり、閑上の新たな一員としてスタートする。そこで生まれる交流が、新しい地域の形を作っていくのだ。それでも、不安がないわけではない。20社以上の複合商業施設は閑上地区にとって初めての経験。「ゆりあげ港朝市」は歴史が長く、日曜日開催で県内外の認知度も高いという実績はある。しかし、平日も営業する「かわまちてらす閑上」は、観光施設としてどんな人々が来るかは未知数だという。

施設内で美容室を営む中橋栄子さんは、震災前が地域密着で店を構えてきた。「町並みは変わっても、この自然は変わらない魅力がある。昔以上の活気にあふれることを願って、希望を持って仕事したい」と話してくれた。

閑上のまちなか再生は、他の被災地と同様に、まさにこれからが正念場だ。同所では、25日のオープンから大型連休の期間中に、オープンイベントとして各店舗で特別サービスを実施。5月26日には閑上のまちなか再生もあり、施設の魅力を内外にアピールしていく。



漁亭 浜や 渡部 正守さん
「ぜひ閑上にお越しただいて、おいしい料理と美しい景色を堪能してほしいです」と話す漁亭 浜やの渡部さん



株式会社かわまちてらす閑上
櫻井 広行社長



交通アクセスの良さも武器の一つである閑上地区。朝市のみならず、トレイルセンターなどの整備も進んでいる。「かわまちてらす閑上」は夜も飲食が楽しめるため、1日をかけて滞在し、じっくりと閑上の魅力を堪能できるようにする。将来的には花火大会なども地元で開き、にぎわいの創出につなげていく予定だ。



1 2 かわまちてらすに出展する人々が集まり会議。オープンに向けて心をつなげてイベントの中身などを煮詰めている 3 建設中のかわまちてらす外観(3月末現在)